

東京北区大河ドラマ「青天を衝け」活用推進協議会のレガシー

当協議会では、大河ドラマ「青天を衝け」の放送を契機に、北区の魅力、北区と渋沢翁の繋がりを広く知ってもらうための取組み、そして北区が活性化するための取組みを様々実施してきました。これらの取組みから有形又は無形のレガシーを遺し、活かすことにより、北区における「シビックプライドの醸成」へと繋げてまいります。

1 大河ドラマがもたらしたもの

(1) 「公民連携」による北区の活性化

平成の終わり、飛鳥山に居を構え、亡くなるまでの30年を過ごした渋沢栄一翁が、新紙幣の肖像となることが決定しました。北区では、この機をとらえて渋沢翁を核にしたシティプロモーションを推進するため、令和の初めに「東京北区渋沢栄一プロジェクト」を立ち上げて「公民連携」による様々な取組みを推進してきました。

そこに渋沢翁を主人公とする大河ドラマ放映が決定し、更に盛り上げていこうという機運の高まりから、観光をはじめとする産業、教育や文化の振興、まちづくりに繋げることを通じて北区の活性化を図るため、東京北区大河ドラマ「青天を衝け」活用推進協議会を立ち上げました。協議会では、大河ドラマ館の設置を決定するとともに、全国からの来訪者に北区をPRするべく、飛鳥山公園の再整備をはじめとする北区の魅力向上、渋沢翁に関する取組みによる地域の活性化、経済界を中心とする北区のおみやげづくりなどの経済の活性化、区内観光への展開など、様々な取組みを推進しました。

これらの取組みにあたって意識したのは、「公」と「民」の連携です。かつて大河ドラマ館を設置した自治体では、大河ドラマ館の運営や地域の機運醸成などの企画運営は、自治体が主体で進める例が大多数でした。

そこで北区の協議会では、大河ドラマ館設置という「公益」に資する取組みを進めるにあたって、「官」である北区シティプロモーション推進担当課と、「民」である東京北区観光協会が共同で事務局を担い、「民」の強みである柔軟性とスピード感、「官」の強みである組織力とネットワークを活用して、「公」の命題である北区のPR、地域活動や経済活動の活性化へと繋げることができました。

とくに、北区ならではの観光コンテンツ開発や大河ドラマ館に係るプロモーションの分野においては、東京北区観光協会をはじめとする「民」が、主体的にアイデアとノウハウを発揮して北区の魅力の効果的な発信に寄与しました。一方、「公」はシティプロモーション推進担当課が中心となり、関連する部課がそれぞれ当事者意識を持ち、組織を横断した迅速な情報共有をベースとした積極的な活動が展開されました。この両者の連携から、多方面から新たな担い手を巻き込み、既成の概念にとらわれない発想やこれまでのルールを越えた手法により事業を推進することができました。このことはすなわち、協議会結成時の目的と位置付けた『北区の課題を「公」と「民」が、互いの役割をしっかりと果たし、力を合わせて解決する「真の公民連携」の実践』の第一歩が踏み出されたものと考えます。

北区において、自分たちのまちに誇りを持つ、シビックプライドに溢れた公・民の人々が、それぞれの強みを活かし、連携して持続可能なまちづくりをめざすことは、さまざまな社会課題の解決にとどまらず、今後、地域の魅力をより一層向上していくためにも、きわめて重要な取組みとなります。

（２）高いポテンシャルを有する飛鳥山公園

飛鳥山公園は、徳川八代将軍吉宗の桜の植樹から現在に至る花見の名所であり、日本最初の都市公園として、王子駅から至近にありながらも豊かな自然を残すとともに、子どもたちの賑やかな声が響く、憩いの場として区民に親しまれております。そして今回の大河ドラマ放送に伴い、その歴史的文化的な価値から、飛鳥山が全国から注目されました。特に、渋沢翁の暮らしの面影を残す旧渋沢庭園には、国指定重要文化財の青淵文庫、晩香廬が現存しており、渋沢邸跡に設置された渋沢史料館とともに、渋沢栄一という人物を「知る」「学ぶ」「感じる」ことのできる場は北区にしかない、貴重な「観光資源」です。至近には、七社神社や国指定史跡の西ヶ原一里塚、旧醸造試験所第一工場など渋沢翁ゆかりのスポットが点在します。これらを総合的に来訪者目線で整備し、活用、発信することにより、国内はもとより国外からの誘客にも繋げられる可能性を有しています。

また、飛鳥山公園は、歴史と文化の香りが漂う空間を形成している旧渋沢庭園を中心としたエリア、元気な

子どもの声が聞こえ、家族が憩う、何世代にもわたって区民が愛着をもってきたお城の滑り台などの児童遊具が設置されたエリア、そして季節に応じて多様なイベント等で賑わいを見せる飛鳥舞台を中心とするエリアと、公園のエリアごとにさまざまな機能と表情を有しています。さらに、茶室「無心庵」跡地においては、「無心庵」の再興をイメージして、茶道にちなんだイベントが実施されるなど、新しい動きも始まっています。

今後、飛鳥山公園では、民間事業者によって飛鳥山公園が持つ様々なポテンシャルをさらに引き出すべく、Park－PFIの展開、指定管理者制度の導入が実施され、「来訪者の目線」を重視した公民連携による魅力的な公園づくりによって、北区に住まう人々の、地域への愛着と誇りの醸成へと繋がることが大いに期待されます。

（３）北区における観光産業確立の第一歩

北区では、2007年度から観光振興に関する取組みを本格化し、観光情報の発信や観光ボランティアガイド、ホームページの開設等に取り組んできました。2017年1月には、北区観光の推進における大きな契機となる一般社団法人東京北区観光協会が設立され、北区が持つ魅力の発信を様々な形で進めてきました。そして今回の大河ドラマ館設置に際しては、北区の「観光」の新たなステージを目指し、必要な準備、整備に取り組みました。

まずは、渋沢邸跡地の再整備です。これらには構想段階から、「公」である北区の関係部課とともに「民」である東京北区観光協会が携わりました。「渋沢×北区 飛鳥山おみやげ館」を設置するにあたり、区の公園管理事務所の一部を改装しました。建築部門のデザインによるスタイリッシュなおみやげ館は、大河ドラマ館の来館者などの区外からの来訪者はもとより、手みやげの購入を目的として来館する方もなど、高い評価を得ることができました。また、土木部門による困障の改善、遊歩道の整備により、青淵文庫、晩香廬東側地域は回遊性が確保された開放的な場所に生まれ変わりました。

おみやげ館で売られる、大河ドラマ館への来館者が求めるような、いわゆる「北区と渋沢栄一の繋がりを想起させるおみやげ」については、産業部門と連携し、区内企業を中心に、おみやげの開発を呼びかけるところか

らスタートしました。その結果、渋沢翁関連商品等開発事業助成などを活用した多種多様なおみやげが誕生し、区内外での出張販売等も行い、メディア等で紹介されるもの、高い評価を得るものが続出しました。

また、観光を楽しむ要素の一つとなる「食」については、各飲食店の渋沢翁にちなんだ商品開発に加えて、飛鳥山公園の開放感と心地よさを感じられるよう、園内にキッチンカーを配置しました。期日を限定して実施した「渋沢ガーデン」では、青淵文庫のライトアップや生演奏など、高級感と非日常を演出することで、これまでにない公園の表情を楽しんでもらうことができ、飛鳥山公園の魅力を多くの来訪者に感じていただきました。

さらに、飛鳥山公園内はもとより区内の観光スポットを広く知ってもらえるよう回遊を促すことを目的として、期間限定で観光案内所を設置し、充実した「北区時間」を過ごしてもらうため、「コンシェルジュ機能」を持つおもてなしに努めました。地域の多彩な主体によって企画された、渋沢翁にちなんだスタンプラリーなどをご案内することで、リピート来訪と区内周遊が促進されました。

そして忘れてならないのは、公園管理の充実です。従前の工事で新しくなったトイレは清掃頻度をあげ、常に気配りを怠らず、さらに気持ちよくお使いいただくことを心がけました。バックヤードを目立たさず、ゴミひとつ落ちていない園内を保つことができたのは、それらを観光資源のひとつとして捉え直し、来訪者目線に立った「公」の頑張りです。

区外からの来訪者だけでなく区民にとっても、これまで見過ごしていた気づきがあってよかったという声もいただくなど、北区に存在する観光的な魅力を知る良い機会となり、北区における観光産業分野の成長の可能性を再認識することができました。

(4) 「渋沢といえば北区」発信のための新たな取り組みへの挑戦

大河ドラマ館を通して北区を全国にPRするため、そして来訪者に北区の魅力を伝えるため、これまでにない取り組みにも積極的に挑戦しました。大河ドラマ館の広告付き年賀はがきの発売や、北区コミュニティバス・都電荒川線へのラッピングは、メディアでも報道され注目を集め、コスト以上のPR効果を得ることができました。

特筆すべきは、東京北区渋沢栄一プロジェクトの広報キャラクター「しぶさわくん」の誕生です。大河ドラマ館

の来館者からは年齢層を問わず絶大な人気を誇るとともに、学校や警察のイベント、更には各種メディアにも登場することで、「渋沢といえば北区」を内外に PR した功績は大きく、今後の益々の活躍が期待されます。

また、JR 王子駅中央口周辺では、これまで未利用だった空間にエンターテイメント的な要素を加えて装飾することで、各所から評価をいただきました。その他、他区広報紙への大河ドラマ館の広告掲出や、企業協賛による動画発信、喫煙マナーカーの試験的設置など、区が将来にわたって事業展開するうえで、新しいアイデアに挑戦することの意義を確認できたことは、区政運営にも大きな示唆となりました。

常に進化と成長を意識し、失敗を恐れることなく新しいことに挑戦した渋沢翁の姿勢こそ、これからの北区を創り上げていくなかで、大切に受け継ぎ、発揮していくべきスピリットです。

(5) 新たな連携と交流の創出

北区では、渋沢翁の新紙幣発行を契機として、埼玉県深谷市、東京都板橋区、江東区と、渋沢翁の顕彰に関する包括連携協定を締結して、渋沢翁の顕彰に関する取組みを実施してきたところです。特に深谷市とは、新紙幣決定当初から連携し、大河ドラマ館の企画内容や PR、おみやげ販売での連携を推進してきましたが、昨今は区民のスポーツによる交流も始まるなど、一歩進んだ連携と交流が進んでいます。

さらに、渋沢翁ゆかりの自治体である北海道清水町や岡山県井原市とは、お互いに PR で連携するとともに、飛鳥山おみやげ館において同自治体の物産を取扱うことを通して、新しい交流の機会が生まれました。

渋沢翁が、地方の繁栄と活性化が日本を豊かにすると考えていたように、渋沢翁を通じた自治体および民間の連携と交流のさらなる推進は、地域経済の活性化と活力あるまちづくり、そしてお互いの発展へと繋がると考えます。

2 今後の新紙幣発行に向けた取組み（レガシー事業）の提案

大河ドラマ「青天を衝け」により、全国的に渋沢栄一への関心が高まるとともに、東京北区への注目が集まりました。また、北区内においても、渋沢翁が暮らしたまちとして、自発的に北区を盛り上げる取組みが着実に根付き始めています。

この機運を、2024年の新紙幣発行に向けた盛り上げへと繋げるべく、オール北区で盛り上げていける取組み、レガシー事業を提案します。

(1) 公民連携による北区の活性化

- ・「公民連携」を実践するための体制づくり
(仮)飛鳥山公園マネジメント協議会の設置
新たな担い手の創出への支援
持続的でフレキシブルかつスピード感のある運用
- ・区民の取組みへの一層の支援
「東京北区渋沢栄一プロジェクト推進助成」の継続実施
全国を視野に活躍する人材の支援
- ・公民連携で北区の発展に繋げる
北区ならではのSDGsへの取組みの推進
公共空間の新しい使い方での利活用
既存の建物や仕組みのリノベーション

(2) 高いポテンシャルを有する飛鳥山公園

- ・飛鳥山公園の価値を高めるための体制づくり
(仮)飛鳥山公園マネジメント協議会の設置
- ・飛鳥山公園ならではのイベント
飛鳥山の渋沢邸を訪れたハワイ国王にちなんだ「フライイベント」
明治期の要人が訪れた茶室「無心庵」跡地でのイベント
- ・渋沢翁との関連付け
「渋沢翁のテーマパーク飛鳥山」を基礎としたプロモーションの継続

(3) 北区における観光産業確立の第一歩

- ・北区ブランドの推進
北区おみやげの継続的な販売
- ・大河ドラマ館等におけるコンテンツの活用
ドラマ衣装の展示、「DEEP散策」の継続、北区飛鳥山博物館の展示
- ・東京北区を広く発信する広告
東京さくらトラム（都電荒川線）・Kバスのラッピング継続
JR王子駅中央口・南口の壁面装飾の継続実施

(4) 「渋沢といえば北区」発信のための新たな取り組みへの挑戦

- ・ しぶさわくんの知名度向上

各種イベント等への出動、各種媒体への積極的な露出

デザインマンホールの設置、マンホールカードの作成

- ・ 「渋沢翁といえば東京北区」を定着させるイベント

飛鳥山の渋沢翁を訪れたハワイ国王にちなんだ「フライイベント」

明治期の要人が訪れた茶室「無心庵」跡地でのイベント

渋沢翁の命日（11月11日）にかかるイベント

「渋沢翁といえば飛鳥山」を日本中へ発信

(5) 新たな連携と交流の創出

- ・ 渋沢翁包括連携協定提携団体、渋沢翁ゆかりの自治体との連携

深谷市との交流促進、板橋区、江東区との連携企画の実施

(仮)「渋沢栄一翁サミット」の開催

北海道清水町、岡山県井原市の物産品等の販売を通じた交流

- ・ 新旧紙幣の肖像の自治体等との連携

福沢諭吉ゆかりの大分県中津市との新旧紙幣リレーイベント

新紙幣肖像（津田梅子・北里柴三郎）との連携強化